

# たまずさ

広報紙 44号 2018年10月21日

「TAMA市民塾」発行

〒183-0056 府中市寿町1-5-1

府中駅北第2庁舎6階

多摩交流センター内

TEL/ FAX 042-335-0111

## 知縁コミュニティ

横田 至明

人は一人では生きられない。昔から「むれ」を作ってきた理由はそこにある。「むれ」が、生物的な扱いで不当だというなら「むら」と言おう。いや、いつそのこと、言い慣らされてきた、「コミュニティ」と言い換えて話を進めることにしよう。

「コミュニティ」は、当初、外敵の侵入や災害から身を守るため、また、水利等にあたる共同体として形作られたものであろう。やがて「コモン」といわれる入会地など共有財をもつようになり、構成員には、その上がり方を分配・利用させることにもつながっていく。そうこうするうち、コミュニティ内で通用する明文化されない「コモンセンス」といった共通認識が形成され、緩やかながら、これが掟のように機能したことだろう。また、そこには、たくましくしてコミュニケーションのネットワークが張られ、内外の情報や外来者は、それとなくチェックされ、内部情報として共有されたに違いない。

こうして長い時間をかけてつくられたコミュニティに揺さぶりをかけたのは、1960年代以降顕著となる、産業構造の変化と都市化の波であった。若年層を都市へ送り出すことになったコミュニティは、変革を余儀なくされる一方、限界集落など、存続を危ぶまれるものも出始めた。

さて、都市に流れた若年層はその後どうなったであろうか。高度成長を続ける（その後沈静化した）経済下、それぞれの所属する企業をコミュニティに仕立て上げようと、ひたすら努力を重ねたのがこの層である。この強い共同体意識と高いモラルが日本を一等国に押し上げたといえる。しかし、その間、この層は、新しい居住地でのコミュニティづくりに加わる余裕はなかった。問題はそこに根ざしていたが、やがて表に出てくることとなった。

定年制である。経済を基盤とする共同体は、所詮、コミュニティにはなりえなかった。定年により、行き場を失ったこの層は、増え続けている。茫然自失する前に、考えてみたらよい。郷里は荒れているかもしれない、居住地域にコミュニティはないかもしれないことを。ならば、郷里に、居住地域に自分で作ろう、自分も参加してコミュニティを作っていこうと。

では、そんなモデルケースがないものかという向きに、当市民塾の講座をお勧めしたい。とあって、「コミュニティの作り方」などという安直な講座があるわけではない。とにかく自分好みの講座を受講すればよい。いずれも20~30人規模で半年か1年ほど続く講座だ。初日に世話人のような幹事が選ばれるが、みんなで協力しあって、机の配置を変え、資料印刷をする間に親しくなり、講座終了後も自主グループを結成し独立して継続するケースがほとんどである。このグループを市民塾では「知縁コミュニティ」と呼んでいる。TAMA市民塾でこのノウハウを学び、引っ提げて、帰りなんいざ・・・

## 講座：口笛はわたしの楽器

～健康増進にも役立つ～

講師：高橋一眞

### ・口笛に夢のせて

青い空、白い雲、広々とした草原、風光明媚な大自然の中で「思い出の曲を気ままに口笛」を吹いていると何となく心が和み、癒され、安らぎを感じる至福のひと時でもある。

24年前ある音楽家の勧めで口笛を吹奏音楽として普及させないかと日本で初めてカルチャー教室で講座を開くことになった。

ひと昔までは、「人前で口笛を吹くなどタブー」とされてきた風習のある中でどんな方々が集まるかな？ と半信半疑でスタート、まさか女性は来ないだろうと思っていたら7割が女性しかも十代～八十代、嬉しい想定外、世の中の変化を感じた。

最近の音楽業界ではコンピュータ音楽が主流になっている中で、従来のアナログ的音楽の良さに心に響く音色という感覚で口笛が、テレビ・ラジオ等で流れたりコマーシャルソングとして使われることが多くなってきた。やっと口笛が一般大衆に認知されてきたようである。

若い人達の間でも興味を持つ方が多くなってきた。音楽大学を出て口笛奏者として活躍している女性 W.K さん、昨年亜細亜大学に口笛推薦入学の女性 K.M さん、同じく東京藝大に口笛推薦入学の A.L 君、時代の変化に驚嘆している。もちろん世界大会でも優秀な成績の持ち主でもある。



### ・気軽に吹いて見よう

最もシンプルな「身体が楽器」の口笛、大方の人が何となく吹いた事があるのではないのでしょうか？ ただ単に「吹くだけ」なら誰でも吹ける。しかし音楽的な表現、他の吹奏楽器のように奏でるには「たかが口笛、されど口笛」である。小鳥たちが共感してくれるように奏でるには、身を入れた練習が必要です。

### ・上達の秘訣

「習うより慣れろ」難しく考えず自転車や車の運転のように身体で覚えていくことが大切、音が出てメロディーが吹けるようになると楽しいですよ。レベルは無限、自分なりの楽しみ方を見つけてください。

周りの迷惑にならないよう「マナーを守り品よく」音楽性を高め楽しみましょう。

## 講座：絵とピアノで楽しむクラシック音楽史

講師：佐藤 恵美

音楽の歴史は、実に紀元前のギリシャ神話のミューズの神様に始まり、音符ができ、音楽の形が現在のクラシック音楽になってから約300年の歴史を楽しく、わかりやすく学んでいく講座をこの度、開講いたします。

私の本職は、ピアニスト&ピアノ教師ですが、演奏をするためには、その作曲家についてどのような時代？生活？人物像？と様々な事を知らなければ演奏はできず、そのために色々と調べるうちに、すっかり音楽史の面白さに引き込まれました。

音楽は、その時代と共に生まれてきた文化の一つ。めまぐるしい時代の変化と共に産業、文化から生まれる芸術の一部として、美術、文学とともに大きく変化を遂げていく音楽。特に人間関係はドラマを見ているようにわくわくドキドキ世界です。

作曲家の裏話や、作曲する経緯などを知ること、より曲を身近に感じとり、聴き方も変わってきます。

私は、ドイツの留学から帰国して以来、いつもコンサートで、曲についてのお話を必ず入れるのですが、それがあつ時、もっと作曲家について知りたい！というお声をいただき、2000年から毎年「作曲家の一生をお話しとピアノで聴くコンサート」を開催し、一人の作曲家の一生を2時間でたどるコンサートをしています。

これが縁で、今では、学校でもピアノ指導だけでなく、演奏家としての観点から見た音楽史の授業を担当させていただいていますが、日々発見の連続です。

それとは別に、子供の頃から大好きだった絵本の世界。今では、家に1000冊以上もある絵本の蔵書、それが生じて、今は、絵本セラピストという別の顔も持ち、更に、絵本+ピアニスト=絵本ピアニストとして、絵本に音楽をつけてのおはなしコンサートや作曲家の絵本で音楽を知っていただき、誰でも音楽を気軽に楽しみ、もっと身近に感じ、理解してもらえたらと活動しています。

今回の講座は、そういった経緯から発想されたもので、単に知識だけを身につけるだけでなく、見て自然に頭に入ってくる絵本と親しみのある曲をピアノで聴くことでマスターする楽しい音楽史！で300年の音楽の歴史旅をしていただこうと思いつきました。

時代を4期=バロック、古典派、ロマン派、近現代 に分け、同時にあらゆる角度=見る（絵本や映像）、聴く（ピアノの生演奏やCD演奏）、触れる（希望者に楽器資料館への案内も可）から学ぶ講座です。

講座では、私のドイツでの体験話や音楽のクイズ、ワークなども入れつつ、受講者の方々の交流もはかりながら、2時間が楽しく充実した時間になっていただけるよう頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。



## 日曜講座の報告

第114回日曜講座を開催しました。参加された方々にお礼申し上げます。

実施日 平成30年7月22日（日）午後2時～4時

演題 「山歩きでおきる虫刺されを防ぐ」

講師 秦 和寿 氏 日本山岳会医療委員会委員（衛生動物部門）

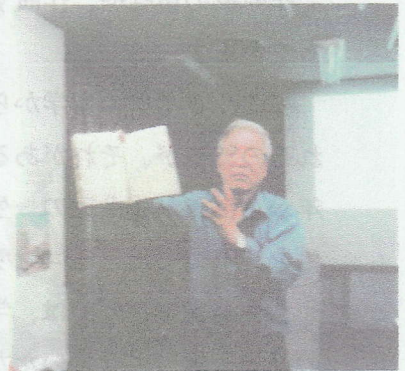
日本は山の国です。虫がいることは自然であり、本来の姿なのです。そして多種の害虫等が発生・存在します。ブユ、ツツガムシ、スズメバチ、アブ、マダニ、ヤマビル、マムシ他です。

古来より防虫対策として、「燻す、忌避する、布などで物理的に防ぐ」ことが行われてきました。例えば、顔は目だけを出して他は布で覆う方法、藍のボロ布を藁で包みそれを燻す方法、そして蚊帳も防虫対策のひとつでした。

害虫の標本も見せて頂きました。また、江戸時代の古文書「和漢三才図会」に載っている害虫の解説もありました。

そして、山での着衣等の注意や虫除け剤・虫刺され用薬・応急処置の講義も頂きました。

ハイキングなどで山間部に行く時は、害虫等の被害に遭わない様にしたいものです。皆さん気をつけましょう。



（文 駿河哲雄）

## 日曜講座の予定

31年1月20日 「やってみませんか マジック（手品）」

高橋正樹さん（日本奇術協会賛助会員）に易しいマジックを教えてください。

31年4月21日 「(仮) 小野小町」

## スポット講座

多摩交流センター以外の会場で行う初めての試みです。

30年11月29日（木曜日）午後2時～4時

会場 聖蹟桜ヶ丘 多摩市関戸公民館

講師 織茂 一行さん

「一の谷合戦の謎」

（詳細はチラシをご覧ください。）